



地下鉄短信(第295号) 平成29年7月6日発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 向田正博
電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



記事 ○「地下鉄施設の保守・維持等に関する研究会」(第1回軌道部会)の開催

○地下鉄施設の保守・維持等に関する研究会(第1回軌道部会)を開催しました。

去る、6月30日(金)に、内神田すいすいビル5階会議室において、東京地下鉄(株)をはじめとする12事業者に、オブザーバー参加の首都圏新都市鉄道(株)を加えた21名と(公財)鉄道総合技術研究所から4名の参加を得て、第1回軌道部会を開催しました。



まず、事務局から、昨年度の3月22日に開催した「事前調整会議」についての説明を行いました。これは、第1回軌道部会の開催に先立ち、軌道部会におけるテーマの選定と各社局が抱える様々な課題を抽出することを目的として開催したものです。事前調整会議では、「レールの電食」を第1回軌道部会の研究課題とすることが決定された旨報告しました。



今回開催した第1回軌道部会においては、まず、軌道全般に焦点をあて、「鉄道総研における最近の研究開発と今後の取組みについて」をテーマに、鉄道総合技術研究所軌道技術研究部の村本部長から講演をいただきました。この講演では、「レール波状摩耗の測定・管理手法」、「耐久性を考慮したレールの腐食対策」や「高頻度検測データに対応した軌道変位急進個所の自動抽出技術」など、最先端の研究開発や現在進行中の研究開発など、多くの興味

深い紹介がありました。

その後、今回の研究課題である「レールの電食」について、鉄道総合技術研究所電力技術研究部き電研究室の重枝室長から、「電食とは何か」や「電食が発生する電位的メカニズム」等について分かりやすい解説がありました。「電食」の事象は、複数の学問分野にまたがる知識、いわゆる、軌道と電気の「境界領域」に属する分野であり、参加各社局の軌道担当者にとっては異分野の知識である電気の理論に関し質問が続出し、会議終了時間まで活発な質疑応答が行われました。



最後に、次回の研究課題を「各社局におけるレール電食の現状と対策について」とすることとし、今回の講演を踏まえ、「電食」の発生要因について電氣的要因も加味して調査することで、会議を終了しました。

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: mukaida@jametro.or.jp